

## A 特別支援学校（視覚障害）

### （1）学校の概要

A 特別支援学校（視覚障害）は、駅の近くという立地の歴史ある学校である。学部構成は幼稚園部・小学部・中学部・高等部で総数は 29 名となっている。このうち、重度・重複学級に在籍しているのは 8 名で、全体の約 28%を占めている。

教育課程上の分類は、いわゆる準ずる教育課程と知的障害等の特別支援学校代替の教育課程となっている。寄宿舎も自宅が遠方により通学が困難な児童生徒のために併設されている。

地域の小中学校との交流及び共同学習等、地域社会との結びつきや交流活動も盛んに行われている。

### （2）ICT の活用状況

校内の機器整備状況として、大型テレビ 2 台、タブレット型コンピュータは 12 台を有している。従前より視覚障害の特性に応じた ICT 利活用を促進するための研究が盛んに行われている。視覚障害教育の専門性の高い情報系の教員が校内のキーパーソンとして校内研修を企画立案実行することによって、校内の教員の ICT に対する理解を深め、積極的に利活用していこうとしている。また、教員間の ICT の利活用の意欲差を少しでも少なくするために、情報系のキーパーソンにより、授業を通じた実践例の共有、専門的な用語を多用せずに関わりやすい言葉で楽しく学べるような研修会が開かれている。具体的には、iPad の使用法に関する基本知識を習得する研修会に加え、3D プリンター等今後活用が期待される最新機器を学ぶ研修も、情報係が企画し、内外の講師による研修会等が実施されている。

今回、1 つの事例が提供された。小学部 1 例である。この事例は、弱視の児童を対象とした iPad を活用した漢字学習の事例である。弱視の児童は、漢字学習において線や形がよみにくいことがあることから、iPad のような拡大機能を備えたタブレット型コンピュータの活用は弱視の児童への特徴的な事例の一つといえる。

この事例からも弱視の児童へのタブレット型コンピュータの活用により、児童の学習意欲の向上にもつながっていることは容易に理解できる。それ故、ICT の校内キーパーソンが管理職と連携して重点的に iPad の使用法に関する基本知識を習得する研修会を開催している。こうした研修会を開催することや研究会の他に校内における活用事例の共有する試みがなされており、校内全体で iPad の活用を促進していこうという機運が高まっている。このように校内において、視覚障害のある児童生徒のための iPad の活用事例を共有する仕組みができているため、今後も類似な弱視の児童生徒への特徴的な iPad 活用が推進され、ICT の活用促進が期待できる状況である。

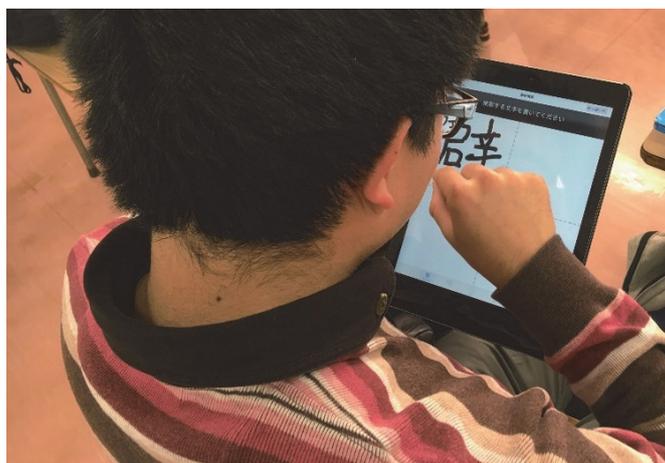
### （3）事例

今回取り上げる事例は、小学部の弱視の児童への iPad とアプリを利用した漢字学習である。弱視の児童の特徴として、線や形が読みとりにくいことがある。それ故、漢字学習に困難が生じる場合が多い。そこで当該事例では小学部の国語の時間において、弱視の児童が拡大読書器、

iPad、アプリ「筆順辞典」を用いて漢字学習が行われた（図 4-2-1）具体的には、これらを用いる事によって、児童自身の見やすい文字の大きさやコントラストで、書き順、とめ、はね、はらい等の細かい字の形までしっかりと確認しながら学習することが可能となるという事例である。

この事例の中で用いられているこの書き順アプリは、線が突き抜けるのか、突き抜けないのか、つながっているのか、離れているのか等の細かな字の形等を児童がしっかりと見ながら確認しながら学習することができるという特徴がある。そのため、児童自身がストレスを感じることなく正しい知識を身に付けることができた好事例といえる。

本事例においては、拡大読書器の基本的な操作技術や児童自身の見やすい文字の大



きさを理解していることにより、授業の狙い通りの成果が得られたものと考えられる。

図 4-2-1 iPad を用いた漢字学習の様子

#### （４）特徴的な点に関するまとめ

今回の事例では、弱視の児童の拡大読書器、iPad、アプリ「筆順辞典」を用いた漢字学習を取り上げた。具体的には、線の突き抜けの有無、線がつながっているのか離れているのか等の細かな字の形等を児童がしっかりと見ながら確認しながら学習することができるという特徴的な好事例であった。こうした ICT 機器を活用することで弱視の児童が抱える見えにくさを補いながら国語以外の教科学習の活用も期待できるであろう。

（田中良広・土井幸輝）

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成 28 年 3 月），69-70 に記載された内容である。